

学科紹介

■ 機械工学科

機械工学科は一年次から単科募集の特徴を最大限活かした取り組みを進めています。計算・情報技術検定や基礎製図検定をはじめ、機械検査、機械保全、機械加工などの技能検定に早期から計画的に取り組み、今年度もたくさんの生徒が合格しました。



ここで学ぶものづくりの基礎は、本校の自慢でもある十八台もの大型6尺旋盤を中心に展開しています。この他に、NC旋盤、NCフライス、レーザー加工機などの数値制御工作機械や、ガス・アーク溶接実習装置などたいへん充実しています。こんな素晴らしい設備を最大限活用し、ものづくりに対する感性を磨き上げ、地域に貢献できる意欲的な技術者の育成を目指しています。

静岡県ものづくり競技大会には旋盤部門、溶接部門、CAD部門に参加しています。今年度は機械工学科3年生山本雄理君が専門校や工業高校の地区予選を勝ち抜いた選手で競技する若年者ものづくり競技大会旋盤部門に出場し、全国大会一位という素晴らしい成績を残したことは記憶に新しいところです。

■ 電気工学科

平成二九年度は、本校開校以来電気工学科の科長を務めてくださいました山内先生が定年退職に伴う異動で中部地区の学校に転出され、他二名の先生が転入、一名の先生が一年間の研修に出られるという電気工学科に大幅な人事異動がありました。このような中、電気工学科の資格取得状況は第2種電気工事事が2・3年生で四二名受験して三八名合格し、91%の合格率でした。また、第1種電気



工事士の合格者は、十七名と生徒たちは、目標に向かってよく頑張りを残してくれています。

ここで、電気工学科の二年生に実施されます施設見学の様子をご紹介します。九月七日に浜岡原子力発電所と駿遠

中学生マイコンカーものづくり講習会には講師役として参加し子供たちへ技術指導を行ってきました。

更には、新たな一歩を踏み出すために電動ゴーカートの製作、平成三十年に開催される全国高校総体のカウントダウンボードの製作などにも着手しています。表舞台に出にくい電子技術を如何に表舞台に出そうと多岐に渡り手を出してきました。本年十月の文化祭でその一部を紹介いたします。電子工学科の活躍にご期待ください。



■ 情報システム科

情報システム科では、「目指せ！未来のICT技術者」を合い言葉に学習に励んでいます。

情報技術の進歩は速く、常に新しい技術を学習しなければなりません。そのためには、創造力と問題解決能力を磨く必要があります。学習内容は多岐にわたる、「時代の最先端を担う人材育成」の為、ハードウェア、プログラムそしてネットワーク技術等についての学習を通して、情報化社会で活躍できる資質や能力を身につけるとともに、「ものづくり」を通して、人間力の育成も行っています。

本年度も資格取得や各種コンテストに積極的に取り組み、国家認定資格の「基本情報技術者試験」、「第二種電気工事士」、「工事担任者DD第三種・AI第三種」に多くの生徒が合格する等、生徒達は精力的に学校生活を送っています。

■ 建築デザイン科

建築デザイン科は、今年度も昨年度と同じ教員の顔ぶれでスタートしました。高齢化社会の様相は我々A科教員にも波及しており、毎年平均年齢を押し上げています。3年の担任は50代の梶原先生、2年の担任が40代の長田先生、そして唯一30代である坂下先生、その他気持ちは20代の教員団が一丸となって生徒を後押ししています。そして各学年が担任を中心に文武両道の精神で何事にも一生懸命に取り組んでいます。『目指せ住まいと暮らしのクリエイター』。新たな発想で、将来に向けて豊かな社会を創造し、構築していけるように日々頭と体を鍛えています。

A科の誇れる点は3学年の繋がりで、特に学校行事では3年生を中心に一致団結します。6月の体育祭では、女子が半数近くを占めるので、科の対抗戦で不利な状況となるために早朝や昼休みを使って3学年で一緒に準備(練習)

とができた。今年度は、震災直後の命を守る行動と復旧・復興に尽力された大植保育園長及び現大植町長の講話を聴く機会を得ることができた。これらの講話を通して、生徒達は災害時の「命を守る行動の大切さ」、「災害復旧に向けた強い歩み」を身をもって学ぶ機会となった。これらの視察を通して、自然災害の脅威と人々の生命と財産をまもる土木技術者の使命感を感じ、進路選択の一助となることを期待している。



高校生ものづくりコンテストでは8年連続東海大会に出場し、測量競技に強い本科の伝統を発揮し、全国大会出場まであと一步のところまで迫ることができた。また、難関な国家資格である測量士補に6名(2年4名、3年2名)、2級土木施工管理技術検定試験に50名(2年生29名、3年生21名)が合格し、資格取得でも大きな成果を残すことができた。

卒業後の進路は、近年県内外の建設関連企業の求人状況が好転しており、今年度は29名の生徒が建設系関連職種(就職者35名の83%)に内定することができた。特に公務員土木職の希望者8名が、国交省1名、静岡市3名、藤枝市・焼津市・伊東市・羽島市に各1名が合格し、公務員を目指す学科の特性を大いに発揮することができた。進学についても、進路希望に応じた6名の生徒達が志望校合格に向けて準備を進めている。

本科の生徒達が、卒業後の進路目標を明確に持ち、日々の学業や学校生活に専念し、社会で求められる真の実力を身につけ、社会に貢献できる土木技術者を目指して、日々を期待している。

■ 物質工学科

物質工学科の生徒の活躍を紹介いたします。授業や実習で学んだ滴定操作を競う「静岡県高校生ものづくりコンテスト化学分析部門」において、三年生女子が県大会優勝、東海大会出場を決めました。国家資格取得では、危険物取扱者乙種第四類に挑戦している二年生三十九人のうち三十七名が取得。その合格率は一般が三十七パーセント前後に対し、六十七パーセントと倍以上の実績を挙げています。その合格者の中には、大学卒業レベルである危険物取扱者甲種に一回で合格するという快挙を成し遂げた生徒もいます。三年生の進路では日本軽金属(株)、三井・ディポ

